

9/10 系統

デニー知事への連帯表明

革新懇 辺野古不当判決受け

平和・民主・革新の日本をめざす全国の会（全国革新懇）代表会話人会は8日、「政府追従の最高裁判決に抗議し、辺野古新基地建設反対を貫く玉城ア二沖縄県知事に連帯を表明する」と題する声明を発表しました。

声明は、辺野古新基地建設を巡り、国土交通相が行った「是正指示」の取り消しを求めて沖縄県が提訴をしていた裁判で、最高裁が4日、「上告棄却を言い渡したことを受けたもの。最高裁判決によつても設計変更不承認の理由は解消されず、新基地建設反対の民意が揺らいた訳でもないとし、沖縄県民の民意を体現するデニー知事への連帯を表明。全国各地でデニー知事を励ます世論、支える運動を強めるよう訴えていま

す。

声明は「繰り返し示

された辺野古新基地建設に反対する沖縄県民の民意を顧みず、沖縄県の不承認理由の追加も検討せず、ついでに沖縄防衛局の行政不服審査請求の適格性に関する争点についても判断を回避した」と批判。最高裁の判断は「法定受託事務であつても住民の利益の観点から認められるべき地方自治体の自主性や自立性をふまえない極めて不当なもの」だと強く抗議しています。

そもそも、沖縄県が防衛局の設計変更申請を不承認としたのは、「軟弱地盤の深さは最大で水面下90mに及んでいるのに、地盤改良は70mまでしか行なわれないなどの理由からです。これらの点について声明は、「国交省も最高裁もまともに検討しておらず、指摘の問題は何ら改善されていなら」として、国に「埋め立て工事全体を再検査し、沖縄県との協議を以てして基地負担の軽減を早期に実現する」と力を注ぎよう」求めています。